

その他, Linda J. Waite 女史による会長講演では, “Does Marriage Matter?” と題して, 結婚の効用を多方面から検討した結果を提示した. とりわけ健康面では「結婚していないことは, 喫煙よりも危険である」などとして配偶関係別死亡率データなどを援用し, 未婚率上昇の個人的, 社会的コストが意外に大きいことを指摘し, これに対する政策的な取り組みの必要性を強調した. (金子隆一記)

第4回数理解人口動態学国際会議

第4回数理解人口動態学国際会議 (Fourth International Conference on Mathematical Population Dynamics) が, 1995年5月23日(火)より27日(土)まで5日間にわたって米国ヒューストン市のライス大学 (Rice University) において開催された. 本会議は1986年より3年ごとに米国ないし欧州を開催場所にしておこなわれている Mathematical Population Dynamics に関する世界的な専門会議である. 参加者は数学, 統計学, 生物学, 疫学, 医学などの諸分野から約150名にのぼった. 各セッションの他に各分野の第一線で活躍している研究者による Plenary Talk が19用意され, Population Dynamics の様々な側面を紹介できるよう配慮された会議であった. 各セッションのタイトルは以下のとおり:

Optimization Methods in Cancer Chemotherapy,
System of PDE's in Biology,
Theory of Epidemics,
Mathematical Population Genetics,
Cell Population Dynamics,
Mathematical Methods of Population Dynamics,
Modern Branching Processes with Biological Application,
Stochastic Models in Epidemiology,
Immune System and HIV Modeling,
Dynamic Models of the Evolutionary Process,
Modeling of the Cell Cycle,
Ecological Modeling,
Population Dynamics in Radiobiology,
Structured Populations,
Cellular Automata and Spatial Interactions,
Cellular Automata, Pattern Formation and Spatial Interactions,
Population Dynamics in Marine Environment.

日本からは筆者と柳谷晃氏 (早稲田大学高等学院) の二名のみ参加であったが, 奇しくも二人ともエイズ流行の数理モデルについて以下のような報告をおこなった:

H. Inaba, On a Pair Formation Model for HIV Infection,
A. Yanagiya, Numerical Treatment of Mathematical Models for Infectious Diseases.

(稲葉 寿記)